

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200308		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイクラブ		
所在地	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷58		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index_php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274100524-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出も制限されていますが、フロアやテラスで楽しめるイベントを常に考え利用者様の笑顔を絶やさぬようスタッフ一丸となっている。

畑では季節ごとに様々な野菜を収穫し利用者様とお料理を楽しんでいる。

どんな時も利用者様本位を基本に思いに寄り添い暖かい関係が築けている。

デイサービスとの合同イベントも企画し、グループとデイサービスが交流できるようアイデアを出し合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の管理者と「その仲間達(管理者ならばと入職した人たち)」での運営となってから向上した事は沢山ありますが、玄関で目を惹くのは「きれい」ということです。雑草はなく、畑にはプチトマトが美味しくすぐに実り、来客用のスリッパも新しく清潔です。併設のデイサービスの管理者が不在となり、2つの事業所を兼務することになって多忙を極める管理者ですが、体力と物理面では難儀をしても心的な面は職員の温かな気遣いで満たされている様子で、職員の接遇と心配りは地域1番ではないかと思う程です。畑やアロマのほか、本年から誕生日月には利用者本人の望みを叶えるという「特別な日」を設けていて、CS(利用者満足)も充実しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく、安心した暮らし ・なじみの暮らし ・利用者様に寄り添い近づけるように努めている	理念はフロアに掲示され、毎月の会議でも紐付けされて語られています。特に体現できていると思われるのは畑で、「おい、草でてるじゃんね」と利用者が気にかけて、今年は大きな西瓜も実っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ対策の為、計画が実現出来ていない ・施設まわり近隣の草刈りを利用者様と一緒にに行っている ・挨拶程度の訪問をしている	管理者が年3回ほど、近隣20軒ほどへと挨拶に廻るという活動を積極的に継続しており、草刈りでは道具を貸してもらえたり、事業所も余剰のマスクを譲るなど、良好な関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在はコロナ対策の為、書面や電話での取り組みを行っている ・地域の人々に会う機会がある時は認知症についての話をすることもある			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナにて実施出来てない現状報告は書面にて行っている	地域包括支援センター、自治会長、民生委員とメンバーは揃っていますが、開設と同時にコロナ禍となり、参会ができていません。それでも回覧板には事業所の通信を挟んでくださる等、応援を得ています。	運営推進会議の参会が叶っていないため、利用者と協働で絵手紙を贈るなど、関係性を保つ工夫があることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・現状を書面や電話で報告し協力関係を築けるよう努めている ・自治会長・班長さんと玄関先でお話をする時間を作っている	自治会の皆さんとは立ち話を欠かさず、また地域包括支援センターにも空室についての問い合わせをもらっています。あいにく常に満床なため、法人内の他の事業所を紹介しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・対象になる行為を理解し、他のアイデアで事故を防ぎ安全を保てるか等研修を行っている ・玄関の施錠をしなくても安全が確保できるよう鈴を付けたりし、利用者様の状態をみながら施錠の時間を減らしている	玄関が階段で目の前の道路も車輦が行き交うため、安全第一を考えるとユニットの施錠は必要です。それでも恒常的となつては職員の意識も下がるため、開放する時間帯を設けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・どういう事が虐待か？どうして起きるか？などスタッフ会議で話し合う時間を設けている ・気持ちに余裕を持って勤務につけるようスタッフと何でも話すよう努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者、リーダー間では努力をしているが、まだ不十分である。 ・必要な時は専門家等に聞きながら進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明してるが質問や不安等があれば、その都度時間を作り対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見・要望はスタッフ間で話し合い出来る限り運営に反映させている ・月のお便りや報告書、お手紙で知らせている	連絡はメールにして欲しいという家族もあり、電話とメールそれぞれの希望に合わせてこまめに連絡を入れています。また数ヶ月に1度、便りとは別に写真を30枚ほど送る事も続けていて、好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議で十分話し合いを行い方向性を決めるようにしている ・アイデアを出し合い実行後のモニタリングを行っている	とにかく職員の仲がよく、皆わかまえているため和も乱さず、本当にチームワークが良いのが自慢の職員集団です。何でも建設的に話し合えるため、物事の解決スピードも速いという特徴があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・気持ちよく働けるよう環境作りに気を配っている ・自覚と意識の大切さを伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・声掛けや技術に優れているスタッフが付き添い教育をしている。また、ランクアップ試験に向けて実践で学習している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者とのネットワーク作りを大切に、サービスの質を向上させるよう交流している ・良いなと思うアイデアは実践できるよう取り組みをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の面談でご本人と話す時間を十分作っている ・入所後は出来る限り密に対応するよう心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・状況をしっかり確認し不安や心配事が解決出来るようにコミュニケーションを深めている ・自社の施設の対応の仕方をオープンに伝え理解して頂く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の意向、ADLを考慮し必要に応じ他のサービス利用も出来るよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・得意分野や出来る事を見つけ気持ち良く楽しく一緒に出来るよう努めている ・教えてもらう事も多く場面によっては支えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と一緒に利用者を支える関係を築けるよう小さな事でも連絡・報告・相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも気軽に訪問出来るよう明るく楽しい雰囲気作りをしている ・コロナ対策の為、現在は面会制限中 ・予約制、条件付で面会再開の検討をしている	以前洋裁をしていた人は「あっぱたん」といって、周りの人の世話をやいてくださいます。また俳句が趣味の親子は、息子からの句に返句をしなくてはと、俳句で生活のリズムを作っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・コミュニケーションが取りやすい話題を提供したり相性の良い悪いも把握している ・興味をひきそうなレクの提供にも取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も相談や支援が必要に応じ出来るよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・フェイストゥフェイスという形の中で個々にその方の考え方、希望までを探り出す努力をしている ・問題がある時はスタッフ会議で検討している	平均介護度1.8で、リビングは賑わいがあり、表出していて引き出す必要がほぼなく有用感満載です。また「特別の日(願いを叶えてもらえる日)」が近づくと、「何着てく？」と洋服選びにも余念がありません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを参考にサービスの方向性を考えてる ・スタッフ会議でカンファレンスとして話し合える時間を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・カルテ、申し送りノート、伝言、変更点がある事は以上の形で把握し共有している ・カンファレンスで確認をかね共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・サービス計画書を作りそれに足したサービスを介護職が利用者様に提案して行く ・細かい部分までCMと相談している	同敷地に隣接する施設から介護支援専門員が週半日ほどやってきて、利用者や職員の話聴いて、介護計画書に落とし込んでいます。職員のカンファレンスの内容も参考にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日、申し送りという形で変更点があれば情報が引き継がれていく形になっている ・特に個別ノートはその日どのように過ごしたかが良く分かるように書いている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・サービス計画書を利用者様の家族に説明する際に新たなニーズがあれば対応可となっている ・難関でも出来る方法を考えてみる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握が不十分でありコロナの為支援が出来てない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に2度訪問医が来て自ら医者に自分の言いたい事を直接話し納得して解決している	全員が事業所の協力医である訪問診療(月2回)と訪問歯科(歯科衛生士の口腔ケア月1回:来所は4回)に変更しており、変調には早期に医療的措置を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職は在中なし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・コロナの為、病院関係への来院はひかえているので関係づくりも出来ない ・相談員とは電話での情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に終末期(看取り)に関しては家族と話し合い説明もっており介護職もそのスキルを持つ ・看取りの研修の場をもっと作っていききたい	「ここで最期を迎えさせてあげたい」との家族が多く、医療が必要でなければ事業所も看取りをおこないたいとしています。協力医は24時間オンコールで、利用者の不調を電話で伝えたと巡回の看護師が立ち寄ってくれることもあり、配慮ある支援を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設長が24時間オンコール対応をしている ・サニーメディカルと24時間連携が取れるようになっている ・事故対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・職員は身についているが地域との協力体制が未だできていない ・防災訓練を定期的に行っている	法定訓練を年2回実施するとともに、「施設防災訓練実施結果報告書」の項目にに基づき、毎回マネジメントサイクルにのせて向上させています。訓練には利用者もはりきって参加しています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者を尊重し思いやりのある声掛け対応をしている ・自分が言われて嫌なことされて嫌なことは絶対にしない	アイコンタクトとスキンシップを織り交ぜたエマニチュード的な関わりができる職員であり、また業務日誌も「～される」「～こられる」「～くださる」と敬語表現で綴られ、安心に満ちています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分の気持ちを伝えられるよう話をする時間を大切にしている ・特に入浴時は1対1なので思いを聞けるチャンスである		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位を守り1人ひとりのペースを大切に1日を充実出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみには気を付けている ・特に女性の利用者とは一緒にその着る服を選ぶ楽しみがある ・化粧やマニキュアを楽しむ事もある ・2か月に一度ヘアカットを実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立を一緒に考えたり調理を手伝ってもらっている ・食器拭きも自ら行って下さる	旬のものを取り入れ、主食と汁物に主菜、副菜2品がつき、家庭的ながらも贅沢な献立を毎食職員が手作りでつくっています。また、利用者も下ごしらえや後片付けに参加して、笑いのある食卓としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回記録し把握している ・栄養バランスを考え量や形態を個人に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自立の方には声掛けをし見守りが必要な方や介助が必要な方に合わせて行っている ・訪問歯科による口腔内のチェックや口腔ケアの指導を受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にて排泄パターンを把握し失敗する前にトイレ誘導を行えるよう努めている	食欲と排泄状態は健康のバロメータとして記録をとり、気にかけています。また入浴などで下着の汚れに気づけば、そういう症状として就寝前に下着の汚れチェックを必ずおこない、清潔を保っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜を多く料理に取り入れ午前、午後運動出来る時間を作っている ・主治医と相談もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・楽しんで入浴してもらえるように工夫している ・お話したり歌を歌ったり笑い声が聞こえる ・入浴剤やみかん風呂など人気である	入浴中に便失禁となる場合もあり、そのときはお湯を入れ替えますが、通常は3名は同じ湯船です(掛け流し)。浴剤は2種類あり、浴剤を入れたくない人は先に入り、入れたい人が選ぶことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調や習慣に合わせて休んでもらっている ・特に夜間は安心して眠れるような声掛けにも注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬表を共有し周知している ・薬の変更も確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・興味をもてる事を探して提供している また、何をしたいか利用者と相談しレク等を行っている ・その人に合った役割を居室担当を中心に考え実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物、外食、散歩、ドライブ等出掛ける機会を作っている ・誕生日月にご本人の希望をかなえショッピングや外食、映画に出掛けている	近所の散歩の他、下りないドライブや人気を避けた場所を探してお花見や七夕まつりも愉しめています。また、「特別な日」も人と距離のとれる店舗を選び、靴や洋服のショッピングも叶い、リビングには歓びいっぱい写真が掲示されていました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理は施設で行っているが希望の物を一緒に買いに行き、可能は限りお金を自分で払ってもらう		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも出来るように支援している ・現在は面会制限の為、利用者にも書いてもらった手紙に日常の写真を添えてご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングの壁に季節を感じられるような飾りつけを利用者様と行っている ・畑では季節の野菜を作っている ・季節ごとキュウリ、トマト、大根、ジャガイモなど収穫を楽しむことが出来る	床のモップ掃除は朝のみですが、消毒を中心としてドアノブなどのコンタクトポイントの拭きあげは1日3回実施しています。換気はこの猛暑のためやや難儀で、「暑いのは少し我慢してね」と声をかけ、5分ほどを何度かおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファやテラスの椅子でくつろいだり気に入った場所で過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使っていた物を持参してもらったり家具の位置や配置も希望に添えるよう配慮している	ほとんどがプラスチックの衣装ケースの持ち込みで、特徴的なものは見られません。漁師をしてきたという人の居室には海関係の写真があり、時折りリビングに持ち込み、皆に見せてくださっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に出来る限り自立した生活が送れるよう居室の場所や導線にも工夫している		